

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

第5学年生6人が中国河北省で臨床実習

河北医科大学臨床実習プログラム 4年ぶりに実施 歯科医療の進歩や中国文化に感銘を受ける

コロナ禍の影響でしばらく途絶えていた中国河北省における臨床実習が再開された。8月10日（木）から15日（火）の日程で、中国の河北医科大学口腔医院および口腔医院中華院区（分院）にて第5学年の成績優秀者を対象にした第6回臨床実習プログラムが実施され、簡立言君、蔡沛彤さん、白清日君、藤田蒼平君、堀越日菜子さん、三野耀君の6人の学生が参加した。学生を代表して三野君が河北省における同プログラムの内容を報告する。

私は今回の海外研修が決まったとき、国を越えた先に何があるのか、どんな歯科医療が行われているのか、とても興味があった。また中国という国でどれだけ自分の知識が通用するのかを知りたかった。

中国では河北医科大学を代表する多くの先生方が我々を温かく迎えてくださり、臨床実習開始前には、河北医科大学口腔医院において歓迎セレモニーが開催された。会場には、熱烈歓迎の横断幕が掲げられ、李増寧党委書記から歓迎のご挨拶をいただいた。本学からは宇田川信之歯



河北医科大学口腔医院での診療を見学する学生たち

学部長が永年にわたる両校の交流について触れ、今回の研修受け入れに對して謝辞を述べた。

臨床研修では、口腔外科、保存科、口腔粘膜科、補綴科、矯正科といったさまざまな科を回ったが、見るものすべてが私の心を震わせた。口腔外科の手術室では、ヒューマンエラーを最小限に抑えることを目指した歯科医師ロボットによる全自動インプラント手術を見学した。歯周病科では、ペリオスコピーシステム、2波長レーザーを見学し、どの科でも担当の先生方が丁寧に説明してくださり、歯科医療の進歩に肌で感じる事ができた。

カリキュラムには、河北医科大学の学生6人と交流する機会もあった。国籍は違えども同じ歯科医療に携わる学生同士、臨



臨床実習プログラムに参加した学生たち

床実習と試験勉強に追われている日々の苦勞を共有した。

昨年開設された河北医科大学口腔医院（中華院区）も興味深く見学した。40台のチェアと最新CTなどの歯科医療機器が備

第55回 全日本歯学体 ゴルフ部 男女総合4位 日本拳法部 団体4位… 全力プレーで健闘光る

第55回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門が7月31日（月）から8月13日（日）にかけて、競技ごとに14都府県の会場で行われた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止が続き、4年ぶりの開催となった。本学は11部門に出場した。ゴルフは埼玉県で行われ、衛生学院第2学年の小松絵李さん



女子個人3位と男女総合4位を喜ぶゴルフ部

が女子個人で3位と大健闘、女子団体も3位となり、9位に入った男子団体と合わせて男女総合4位と躍進した。主将の今村奏介君（第3学年）は「一人一人が頑張った結果」と喜んだ。日本拳法は大阪府の会場で行われ、個人男子で第4学年の植竹智紀君が4位（敢闘賞）に入り、団体も4位入賞を果たした。

主将の大堀千郷君（第5学年）は「みんなが丸丸とって精いっぱい戦った」と話していた。水泳は広島県で行い、第1学年の佐藤実夢さんが50mバタフライと200m個人メドレーで、それぞれ4位に入った。主将の野崎優君（第3学年）は「部員一同、素晴らしい経験ができた」と振り返った。剣道は千葉県で行われ、男子3人、女子2人と有利とはいえない編成ながら、女子が活躍して支え、団体でベスト8となった。バスケットボールは茨城県で開かれ、留学生、日本人学生、衛生学院生が一体となって善戦、8年ぶりに決勝リーグに進み、ベスト16となった。硬式野球は千葉県で行われ、女子団体が12位となった。



団体4位入賞の日本拳法部

4年ぶりに開催され、多くの学生にとって初の歯学体だったが、それぞれが全力を尽くし健闘した。思うような成績に届かなかった部門の主将も「この経験を胸に秋の大会に向けて、チーム一丸となって頑張りたい」と意気込みを新たにしていった。本学の結果を集計した体育連絡協議会委員長の伊藤公平君（第5学年）は「コロナをはね除け、みんなで新しいスタートを切れたことをとてもうれしく思う」と総括していた。

えられていて、CAD/CAMシステムを用いての歯冠修復やライナー矯正などについても詳しく学ぶことができた。小児歯科、矯正歯科には朝から多くの患者が訪れていた。小児歯科には7つの個室があり、先生、スタッフが手際よくスピーディかつ繊細に治療に取り組んでいた。また、歯科医療だけでなく診療の予約、支払い、処方箋、治療後の注意事項をはじめ、X線写真ファイルの自動印刷などのデジタル化には学ぶべき要素が数多くあった。

中国文化学習では、河北博物院や正定の臨濟寺を見学した。北京の街並みや夜景、歴史的建造物などを見ることができ、中国の古い歴史は今なお現代の中国人の人々に受け継がれているのだと感じた。

最新の医療機器、豪華な食事、歴史的遺産や街並み、それら一つ一つがとても大きな刺激であり、私自身が思う歯科医師の在り方や学びの姿勢、そして中国という国について改めて考え直すきっかけとなった。交流会の宴では、私が全員を代表し、感謝の気持ちを込めて「ハナミズキ」を歌い、河北医科大学と松本歯科大学の友好関係が「百年続きますように」と願った。

今回の臨床実習プログラムに参加できたことを心から誇りに思い、より深く歯科医療を学びたいという意欲に駆り立てられている。この経験を糧にいつそ研究を積んでいきたい。

最後に、このように素晴らしい機会を提供いただいた河北医科大学の皆様、本学の矢ヶ崎雅理理事長、我々学生を引率してくださった宇田川歯学部長、総合歯科学研究所の楊靜准教授に心から御礼申し上げます。そして日本と中国の意思疎通に同様の優秀な留学生の協力にも感謝します。

（第5学年 三野耀君）

2択問題でたばこのポイ捨てがなくなる。

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島 勲

今月号は『プレジデント』9月15日号「リーダーの掟 飯島勲」より、たばこのポイ捨て対策や日本郵政グループの禁煙宣言についての記事を要約して紹介します。

喫煙に対する風当たりは過去最高に厳しくなっており、街中で喫煙所を見つけるのもひと苦労だ。どこかに安全にたばこを吸える場所はないか……と思っていたら、実にユニークな取り組みが見つかった。

喫煙所ブランド「THE TBACCO」を運営するコンドが展開している「投票型喫煙所 ASK THE TOBACCO」という事業である。灰皿に「同じ値段で買うなら田舎の100坪と都会の1坪どちらがいいか」「永遠の愛を持った一文無しと永遠に孤独な億万長者ならどちらがいいか」といった二者択一式の

質問が書かれていて、たばこを吸ったあとの吸い殻をどちらかの答えの下に穴に入れて「投票」するというものだ。灰皿はガラス張りになっており、どちらの答えが優勢なのか、誰でも確認することができる。

実際にうまくいっている。こうした質問が設けられていると、つい興味でしてしまうのが人間の性だ。これは、行動経済学におけるナッジ効果を狙ったものだと思われる。「nudge」は英語で「行動をそっと促す」という意味で、ナッジ効果とは、小さなきっかけで人の行動変容を促すことである。この理論を提

唱したシカゴ大学のリチャード・セイラー教授がノーベル経済学賞を受賞したことで関心が高まり、ナッジ効果を応用した事例が激増した。

たとえば、コンビニでレジ前の床に足跡マークが貼られてあるのを見たことがある人は多いと思う。これもナッジ効果を狙ったもので、つい足跡マークのある場所に並んでしまう。店によって、並ぶ人によって動線が塞がれないようにお客さんを誘導できる。

投票型喫煙所を渋谷センター街に設置したところ、設置前に比べてポイ捨てがなんと90%も減少したという。ポイ捨ての抑止と同時に、マーケティングのデータ集めまで一緒にできてしまつとは秀逸なアイデアと言わざるをえない。

そもそも、なぜ私が喫煙所に興味を持ちだしたのかといえ

ば、私の自宅が禁煙になってしまったからだ。これまでベランダでのみ喫煙を許されていたの

だが、このたび妻からベランダを含む自宅敷地内での全面禁煙を命じられてしまった。妻の決定は最高裁の判決よりも重い。受け入れるしかないのである。

毎朝早めに官邸に出勤し、建物内のたつた1カ所の喫煙所に直行してたばこに火をつけたときが、私が真の意味で目覚める瞬間だ。

そして、禁煙関連でもうひとつ気になったニュースがあった。日本郵政グループの「禁煙宣言」というニュースだ。この

宣言は短いので、全文を見てもらおうと思う。

私たち日本郵政グループは、「お客さまと社員の幸せ」を目指す企業理念の実現に向けて、「日本郵政グループ健康宣言」を定め、健康経営を推進していきます。その一つとして受動喫煙を含む喫煙の健康被害を低減するため、禁煙施策を推進します。

日本郵政グループの喫煙率は、国の調査結果と比べて非常に高くなっていることから、禁煙意識の醸成や禁煙にチャレンジする社員へのサポートなど各種禁煙施策に取り組み、社員一人ひとりが能力を存分に発揮し活き活きと働くことができる職場環境づくりを推進していきます。

……のことだが、具体的な取り組みを見てみると拍子抜けしてしまつた。

禁煙が行われるのは「一部の事業所・事業場」となっており、具体的に事業所のうち何%がこの施策を行うのか、将来的にどれだけの事業所で禁煙を行う予定に努めてもらいたい。

禁煙の前に、こうした職員へのプレッシャーのない組織づくりをする必要があるのではない

か。小泉純一郎元首相のもとでも私もかわつた郵政民営化とともに誕生した日本郵政グループの動向については注目している。中身の薄い「禁煙宣言」などでごまかさず、経営の健全化に努めてもらいたい。

禁煙が求められるのは「一部の事業所・事業場」となっており、具体的に事業所のうち何%がこの施策を行うのか、将来的にどれだけの事業所で禁煙を行う予定に努めてもらいたい。

禁煙の前に、こうした職員へのプレッシャーのない組織づくりをする必要があるのではない

か。小泉純一郎元首相のもとでも私もかわつた郵政民営化とともに誕生した日本郵政グループの動向については注目している。中身の薄い「禁煙宣言」などでごまかさず、経営の健全化に努めてもらいたい。

禁煙が求められるのは「一部の事業所・事業場」となっており、具体的に事業所のうち何%がこの施策を行うのか、将来的にどれだけの事業所で禁煙を行う予定に努めてもらいたい。

禁煙の前に、こうした職員へのプレッシャーのない組織づくりをする必要があるのではない

オープンセミナー発表会 興味を探究し自ら課題解決



フランス語の会話例を実演する学生たち

第1学年オープンセミナーの発表会が7月21日（金）と8月18日（金）の2回、キャンパスイン101教室で行われた。

本セミナーは問題解決型学習（PBL=Problem-based Learning）による主体的学修能力と問題解決能力を養い、具体的な事例や問題点をもとにした課題に取り組みものである。各学生は

興味あるセミナーを選択して受講し、学生自身が実験を行った

り、文献、インターネット等により調べたりすることとなる。

今回は、「ニューヨークサイエンス入門」「かたちをくらべてみる」「データサイエンス入門」「ピア・リーディングによって触れる」「知の世界」「金属とは何か」「歯科医としてのコミュニケーション

者さんとのコミュニケーションで大切なこと、フランス語の発音と会話、ギリシャ神話と西洋絵画の関連、仏教、日本神話など、発表内容は多岐に渡った。

各グループはパワーポイントを用いて、調査結果を10分程度で発表し、質疑応答が繰り広げられた。

本セミナーが、歯科医学の進歩と社会の多様なニーズに応えることのできる歯科医師の育成につながることを願い、学生を指導していただいた教員の方々に感謝申し上げる次第である。

（教務部長 中村浩彰）

韓国で日本留学フェア4年ぶりに開催 留学希望の学生たちが多数来場

8月5日（土）、6日（日）の両日、独立行政法人日本学生支援機構主催による2023年度日本留学フェアが韓国にて4年ぶりに開催された。フェアは、開催国の学生が日本留学を志し、かつ留学希望に合った教育機関を選択し、実りある留学を達成することを趣旨とし、機構

が日本の教育機関の参加を得て毎年実施していたが、コロナ禍で休止していた。本年度は韓国とベトナムの2カ国で開催予定で、本学は韓国のみに参加した。

5日は釜山で開催され、宇田川信之歯学部部長と本学と業務契約している「美しい森留学センター」の金炫知院長が相談に

応じた。歯科医師の父親やヨナム大学化学科に通い編入学を考えている学生、日本留学試験（EJU）を受験して本学の留学生選抜を考えている学生、歯科衛生士になりたい学生などが訪れた。釜山で父親の開業する歯科医院に勤務する41期生の金讃才先生も訪れ、韓国の歯科医師需給問題や歯科医師国家試験の状況を伺うことができた。

6日はソウルで開催された。歯学部への留学を検討中の学生や、家族で上田市に住んだこと

があり本学に親しみを感じている学生などが訪れ、熱心に質問していた。

フェアの来場者は2日間で4100人と前回より620人少なかったが、両会場とも日本留学を考える学生で賑わった。

韓国からは毎年10人ほどの留学生が入学し、約60人が在籍している。今回の日本留学フェアに参加した学生たちがこれを機会に受験してくれることを期待する。

次々と学生が訪れた本学のブース

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授
笠原 浩

症ムシ菌」は成長発育のただなかの子どもたちに重大な悪影響を及ぼしていた。やせ細って顔色も悪い。放置はできない。

母校の小児歯科では、幼児はききわけがなく、不意に動いたりして危険だからと、チェアに取り付けられた拘束帯で「固定」し、開口器で口をこじ開けて治療するのだと教えられていた。だから筆者も、泣いて嫌がる子どもたちを補助者の手も借りて無理やり抑えつけ、治療をしていた。暴れて汗びっしょりになるので、下着だけにして、大きなシートでぐるぐる巻きにするようなテクニックも考え出した。

当時はアングロサクソン流の「子どもは厳しく躾ける（鞭を惜しむと子どもをスポイルすることになる＝欧米の諺）」という考え方が、医療の場でも主流で、治療を嫌がるような「悪い子」を躾けるためには、きびしい態度で叱りつけ、威圧すべきだとされ、子どもの口を手で覆って、声を出させないようにする「ハンド・オーバー・テクニク」や身体抑制法が教科書に載っていた時代だったのである。

しかしながら、全く身動きできないように身体拘束されて、痛みを伴う処置を強行される「強制治療」……考えようによっては、これは「拷問」そのものだ。それもたつた1回だけならばともかくも、重症ムシ菌の治療では何度も繰り返さなければならぬ。受ける子どもとしては堪ったものではないだろう。

紹介され来院する小児重症ムシ菌の患者が急増する中で、こうした「強制治療」を実施する側の筆者にも、精神的肉体的な負担が耐えがたいものとなっていた。

60年前の歯科医療(8)

抜歯などの日常的な治療で対応できるはずだ。

けれども、相手がききわけのない子どもとなると、「大きく口を開けてじつと動かずいる」と言う歯科治療の当然の前提が成立しない。それどころか、泣き暴れて全力で抵抗するとなれば、小さな口の中での複雑な処置は、ほとんど不可能である。

しかも歯科医師の絶対的不足で、どここの歯科医院の待合室も患者で溢れていた時代なのだから、診療台に乗せるだけでも手間がかかる幼児に時間を割く余裕がある歯科医師はいなかったに違いない。そんな面倒な患者は他の医療機関に回してしまえ……ということだったのである。

「紹介状があればどんな患者も受け入れる」と看板にある以上は仕方がない。筆者は懸命に小児歯科医療に取り組んだ。「重

病院だより vol.52

骨粗しょう症の最新治療

本邦の骨粗しょう症患者数は約1500万人ですが、治療患者は約400万人前後です。日本人に多い椎体骨折患者の三分の二は腰痛等の症状がないため、次の骨折が起こるリスクが高まります。大腿骨骨折患者の5年生存率は50%未満であり、多くの患者の5年生存率より低いです。骨粗しょう症患者の約8割は閉経後の女性ですが、これは骨吸収を抑えていた女性

ホルモンのエストロゲンが減少し、骨吸収が亢進していくためです。医師は骨粗しょう症を治療しますが、最大の目的が骨折予防とともに死亡率抑制です。著者が骨粗しょう症を学んだ産婦人科では、エストロゲン補充療法が治療に用いられていましたが、乳がんリスクも高まるため、乳がんリスクは上げず骨に働く選択的エストロゲン受容体調整薬が開発されました。骨吸収が亢進するために骨量低下が起こるのであれば、骨吸収を抑制すればいいという考えで開発されたのが、ビスホスホネート(BP)製剤です。メカニズムは異なりますが、抗ランクル抗体(デノスマブ=Dnab)も骨吸収抑制により骨量を増加させます。期間限定ながら、骨形成を促進するテリパラチド製剤も開発されました。近年では骨形成促進と骨吸収抑制の双方の作用を有する抗スクレロステン

抜歯前休薬期間に認めた有害事象(骨粗鬆症学会医師全国調査)

	2022年 (有効回答: 845名)	2015年 (有効回答: 523名)
有害事象	例数(%)	例数(%)
なし	668	394
骨折	69 (8.2%)	25 (4.8%)
顎骨壊死	10 (1.2%)	7 (1.3%)
腰痛等の症状悪化	23 (2.7%)	27 (5.1%)
骨密度の低下	150 (17.8%)	60 (11.4%)
その他	8	

田口、他、日本骨粗鬆症学会報告予定、2023

抗体(ロモンスマブ)も開発され、日本で広く用いられています。最近単剤ではなく2剤による逐次療法も国内外に広がっています。有益な薬剤が開発された一方で、BPやDnabにより顎骨壊死(ONJ)が起こることが報告されて以降、20年近くが経過しました。2007年の米国口腔顎顔面外科学会のポジショステーパー(PD)では、BPやDnab使用患者での抜歯前後の休薬が提唱され、2009年に本邦に導入されて以降、その概念が広がりました。2022年末に著者が行った全国専門医調査では、抜歯前に医師に休薬を依頼する歯科医師は87%にも上り

トを見いだして育成する、長野県スポーツ協会の「SWANプロジェクト育成事業」にも賛同し、2028年に長野県で開催される第82回国民スポーツ大会・第27回全国障がい者スポーツ大会への協力も視野に入れている。7月28日(金)には長野県軽井沢町においてSWANプロジェクトの夏季合宿が行われ、鷹

松本歯科大学銀座8丁目クリニック(東京都)の矢島安朝院長は8月19日(土)放送のBSフジ情報バラエティー番組「もしもで考える」なるほど!なっくとく塾」に出演、全身の健康にも関連する歯磨きの大切さを分かりやすく丁寧に解説した。番組は、毎回様々な専門家を「講師」に迎えて、タレントで元千葉原知事の森田健作さんが塾長、俳優の京本政樹さんら

銀座8丁目クリニック 矢島安朝院長がテレビ出演 歯磨きの大切さを講義

タレントが「塾生」となっている健康寿命を示し、健康寿命の延伸のためにも口腔ケアが重要であると強調。森田さんとの掛け合いも軽妙にこなし、森田さんが、「健康は、自分自身がやらなければならない大きな仕事」と講義の感想を述べると、大いに賛同していた。



森田健作さんの質問に答える矢島院長 (右)

長野県スポーツデニティスト協議会が発足 スポーツを愛する人たちのパートナーとして夢を共有



小中学生にマウスガードについて説明する鷹股特任教授

同協議会は、県内の日本スポーツ協会公認スポーツデニティストと、日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードテクニカルインストラクター(歯科技工士)ならびにスポーツデニタルハイジニスト(歯科衛生士)らで構成する予定で、鷹股特任教授は「県内の各スポーツ団体にデニタルファミリーとして所属し、プロ・アマを問わず、アスリートの口腔ケアや外傷予防などに尽力していきたい」と話している。キャッチフレーズは、「私たちはスポーツを愛する人たちと夢を共有するパートナーでありたい」。

本学教職員の職務の質的向上を目的としたSD(スタッフ・ディベロップメント)研修会が7月12日(水)、本館6階601教室において「長野県の歯科口腔保健行政について」というタイトルで行われた。今年度は、講師に長野県健康福祉部健康増進課長の田上真理子先生を迎え

て開催された。田上先生は、鹿児島大学歯学部卒業、東京医科歯科大学大学院修了、2018年に厚生労働省入省、現在は長野県の口腔保健活動を含めた健康増進施策の中心を担って活躍されている。田上先生はまず、日本政府の予算編成の方向性を示す基本方

長野県の歯科口腔保健行政を学ぶ 2023年度SD研修会

針である「骨太の方針2022」の中で、「国民皆歯科健診の推進こそが、介護予防活動に必須であり、歯科医師・医師・リハ専門職・管理栄養士・歯科衛生士等の多職種連携が重要である」とことについてお話をされた。長野県の平均寿命(2020年)は、男性は全国2位、女性は4位という長寿県である。この健康長寿の要因としては、野菜の摂取量が多い(全国1位)、高齢者の就業率が高い(全国1位)、保健師による地域

するという安心感からスポーツに集中でき、全力を注ぐことが可能な装置です。歯科医院でつくるカスタムメイドのマウスガードの使用してください。日々の練習をケガなく過ごしてパフォーマンスを上げることが、未来の夢につながると思います」と話し、今後の活躍にエールを送った。



講演する田上先生

保健活動の活性化(保健師数全国1位)などが挙げられる。しかしながら、脳血管疾患による死亡率は全国平均より高く、高い塩分摂取量に起因することが示唆されており、今後の大きな課題である。また、口腔領域においては、70歳代以上の年齢では全国平均より歯の本数が少ない、歯周ポケットを有する人の割合が高い(50歳代・80歳代)、歯科健診受診率が低い、といった長野県民の口腔衛生状態の意外な問題点についても説明された。これら

SD研修会は、教職員を対象とする本学の人材育成の取り組みの一つであり、講演翌日以降に配信された録画聴講を含め全職員が受講した。(歯学部長 生化学講座教授 宇田信之)

の詳細な解析とその解決に向けた方向性を探ることは重要な課題であろう。最後に、長野県における「お口の健康推進員」のさらなる育成を図り、「オーラルフレイル対策」のための摂食嚥下診療に携わる施設の整備を行うことについて述べられた。講演後の討論においては「国民皆歯科健診制度」の実際とタイムスケジュールについての質問があり、政府および長野県の一層の支援が必須であることがクロージングアップされた。また、長野県が有する健康長寿ビッグデータの統計学的解析について協力している本学公衆衛生学講座の山賀孝之教授からのコメントも寄せられた。

Alumni News

松本歯科大学校友会

滋賀県支部

次世代の雇用、受け入れる歯科医院も次世代に 大垣女子短期大学・小原 勝教授が講演

した。総会は武藤幸夫副支部長（17期生）の司会で始まり、今期から支部長が宮澤英二先生（7期生）から小川益弘先生（9期生）に替わり新執行部として小川新支部長が「コロナ禍、対面での総会・講演会が出来ず4年ぶりの開催を嬉しく思います。今後の校友会活動に協力とご理解をお願いします。」と挨拶をされました。

近況報告の後、令和5年度松本歯科大学校友会滋賀県支部学術講演会が開催されました。講師として大垣女子短期大学教授小原 勝先生をお招きし、第1



講演する小原教授

部「歯科衛生分野学生の就職活動の実際」―Z世代の就職先の選び―、第2部「口腔感染症とProbiotics」―口腔細菌叢の制御は可能か?―と題して2部構成で行われました。

1部は最新の就職状況（前年度）やここ数年大きく変わった就活の形、変化した就職支援での指導、現実に見た学生たちの行動に見える就職決定の変化、そしてZ世代の価値観と雇用成功のカギなど色々な数字や統計データを使い、わかりやすくまとめあげた講演でした。改めて自院の雇用における考え方を更新しなければならぬと感じました。また、学校側も学生に対する教育法や接し方の変化、さらに学ぶことの苦手な学生の精神面のサポートやカウンセリングなど、つい数年前までは考えられない変化を強いられれている現状も聞かせて頂き、これからZ世代を迎え入れる医院にとっては大変参考になったと思います。

2部では口腔常在菌（オーラルマイクロビオーーム、口腔内フ

ローラ、口内細菌叢）が善か悪かを考えながら幾つかの可能性を話していました。またマイクロビオーーム解析で細菌同定は出来ても培養が難しい口腔内常在菌の存在があり、それらの未知の作用が解れば歯科に何らかのプラスになり得るかも知れないとのことや、口腔内疾患に自

家唾液を活用し治療に生かせるか模索中とのことでした。

今回、1部、2部と二人の講師で担当長丁場だったため講師の先生にはかなり負担がかかったと思いますが、私たち参加者にとっては充実した時間になったかと思っています。

（18期生 加賀井 清）

徳島大学病院・二宮雅美先生を招き

歯周組織再生療法の基礎的な知識を学ぶ

8月18日（金）、徳島大学病院高次歯科診療部歯周病専門部門部長・二宮雅美先生をお迎えし、第416回松本歯科大学大学院セミナーが開催された。

二宮先生は日本歯周病学会専門医であり、現在まで歯周病患者を中心として数多くの素晴らしい症例を学会発表、論文発表されており、日本歯周病学会における臨床ポスター賞を5回も受賞されるなど、日本でも有数の歯周病治療専門医として活躍されている。2008年より本学歯科保存学講座非常勤講師、2021年からは本学臨床教授として、第5学年を対象に、毎年歯周外科療法についての講義をしていただいている。今回、

では失われた歯周組織を再生させることは困難である。古くから歯周組織再生に対する積極的な治療法が試みられ、いくつかの歯周組織再生療法はフラッグ手術と比較して一定の成果をあげてきた。日本では、塩基性線維芽細胞増殖因子（Basic fibroblast growth factor: bFGF）を主成分とする歯周組織再生医薬品として、2016年に「リグロス® 歯科用液キット」が世界に先駆けて市販化され、保険治療による再生療法が施行できるようになった。

のテクニックセンシティブな手術法と比較して、調整や投与が簡単であるという利便性のほか、enamel matrix derivative (EMD) のような動物由来製剤ではないという安全性を有し、その優秀な治療成績から多くの症例で使用されている。二宮先生は各歯周組織再生療法の原理をエビデンスに基づいて解説され、科学としての歯周組織再生療法もよくわかる講演であった。

講演には今まで歯周組織再生療法を自身で行った経験のない若手歯科医師が多く参加し、歯周組織再生療法の科学的基盤とともに、リグロス®を安全で効果的に使用するための切開剥離、デブライドメント、縫合などの手術手技や、骨補填材との併用療法の選択について、基礎

に持つていくかなど、治療をクリアする為のポイントもお話しいただいた。

多くの若手研修医や助手の先生も参加し、とても刺激的な研修会であった。村上先生の講演から、自分が本当にやりたい独自の研究テーマを選んで徹底的に行うことが重要であると強く感じた。このように研究テーマに悩んでいる若手臨床医をエリカレッジする講演だった。質問もサイエントフィックなものや、治療に関する質問、歯周病治療に関するものなど、多くの質問が寄せられ、村上先生には一つ一つ丁寧にお答えいただいた。9月に科研費の応募締め切りがせまるなか、多くのヒントを与えていただいた研修会であった。

第2回FID研修会

若手教員が臨床研究の楽しさ学ぶ

7月14日（金）大阪大学・大学院歯学研究科・口腔治療学教室・教授・村上伸也先生をお迎えし、FID研修会が開催された。村上先生は、日本発の再生



わかりやすく解説する村上教授

治療薬リグロス（FGF2製剤）を初めて世に送り出した先生である。先生には、「臨床研究は楽しい―着想から創薬へ―」と題し、若手臨床教員を主な対象として臨床研究を着想からどのように臨床応用へ進めてきたかを、苦勞話を交えて、研究の楽しさをお話しいただいた。

歯周病における再生治療の適応症や、既存の再生治療薬の効果やまだまだ再生治療が難しいタイプの歯周病があることをわかりやすくお話しいただいた。さらに、歯周組織再生におけるリグロスの治療効果や治療効果のデータをどのようにして治療

（総合歯科学研究所 教授 小林泰造）

写真部ギャラリー

～今月の一枚～



『青森のねぶた祭』 撮影：田中周作（第3学年）

青森の夏を彩る祭典「青森ねぶた祭」を捉えた一枚です。何万人もが集まり、歩くことも困難な程でした。感染症の影響で今夏は4年ぶりの開催となり、周囲の気温が上がったかと思うほど、現地は熱気に包まれていました。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

お知らせ

松本歯科大学は市民公開講座「歯科医療相談室」を9月と10月に全4回、塩尻市のえんばーくで開く。時間は各回午前10時～11時半。全回受講者には修了証と記念品を贈る。参加無料。事前申し込み不要。問い合わせは本学社会貢献・地域連携推進センター（☎0263-5112163）へ。日程、テーマ、講師は次のとおり。

- ① 9月19日（火）「インプラントって本当にいいの？」 病院長・樋口大輔
- ② 9月26日（火）「歯医者へ行くのが怖くないですか？」 歯科麻酔学講座准教授・谷山貴一
- ③ 10月3日（火）「味覚」の役割を「存じますか？」 生物学講座准教授・安藤宏
- ④ 10月13日（金）「ムシ歯予防大作戦」COってなに？ 小児歯科学講座准教授・中村浩志

9月行事予定

- 4日（月）～15日（金）前期定期試験（衛生学院第1・2学年）
- 10日（日）一日体験入学（歯学部）
- 11日（月）後期授業開始（第1～3学年）
- 25日（月）～26日（火）前期定期試験（衛生学院第3学年）
- 26日（火）Ⅲ期試験（第6学年）

人事異動

- 〔配置換え・本務変更〕7月1日付 薛 博元 東郷診療所副院長（契約職員）
- 〔配置換え〕7月1日付 下條 愛子 東郷診療所副院長（契約職員）
- 〔採用〕8月1日付 白澤 幸恵 事務局入試広報室事務員
- 丸山かなえ 東郷診療所事務員（契約職員）
- 山口 政志 事務局入試広報室事務員（契約職員）
- 〔昇任〕8月1日付 北澤 富美 歯科技術士室副技術士主任（本務変更）
- 〔本務変更〕8月1日付 笠原 悦男 衛生学院長（衛生学院准教授）
- 〔本務変更・兼務〕8月1日付 川原 一郎 副歯学部長（衛生学院准教授）
- 島田 陽子 衛生学院准教授（衛生学院准教授）

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

総合型選抜（Ⅰ期）

試験日 10月28日（土）

出願期間 10月10日（火）～10月25日（木）

一日体験入学

9月10日（日）・10月1日（日）・29日（日）

開催時間 9:30～15:00（受付 9:00～）

●キャンパスツアー ●ランチ体験 ●模擬実習 ●入試説明・進学相談 など

※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210

松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp